

令和5年度  
学校関係者評価書

〈専〉 京都伝統工芸大学校

## 学校関係者評価委員会開催の記録

1. 開催日時 令和6年2月16日（金）午後3時00分～午後4時30分
2. 開催場所 京都伝統工芸館 8階会議室
3. 学校関係者評価委員
  - 山下 俊彦 京都府南丹教育局長
  - 玉田 芳史 放送大学京都学習センター 所長
  - 兼松 俊明 京都漆器工芸協同組合 理事長
  - 田中 宏明 卒業生田中めぐみさんの保護者
  - 草留 大優 京都伝統工芸大学校 卒業生
  - 太田 知良 京都伝統工芸大学校 卒業生

### 京都伝統工芸大学校出席者

新谷校長 工藤教務部長 近藤事務部長 赤羽

#### 4. 総括

1) 本校での学生指導、教育編成、自己評価等の学校運営について、行政機関、組合、卒業生、父兄の視点から検証を行った。今年度はコロナウイルス感染症の影響により停止していた国際交流が徐々に再開した。シアトルへの短期留学やシアトル大学の嘉住教授が本校に滞在し特別講義を実施していただいた。入学式・卒業式、卒業修了作品展等の一連の行事を終えた。本校の文化祭である「松葉祭」では、来場者等の制限をかけることなく開催できた。徐々にコロナウイルス感染症前の状況に戻りつつあることを評価したい。

2) 本年の議論の中で2, 3, 4年生の選択科目の強化について話し合われた。2年間で技術の習得ができない学生のために、4年間の前半で基礎、後半で応用を習得させていく。その他、作品の発信技術も学ばせていきたい。工芸デザイン演習は専門実習に直結する演習としており、川北ゼミでは「美山ガチャ」、高石ゼミでは動物造形作品を京都市動物園に展示した。自身が制作したものを発信する機会を今後増やしていきたい。

3) 今年度新たに実施された事業として、「一般社団法人 JINLUCK サポーターズ京都伝統産業育英奨学金」を実施した。伝統工芸の技術習得に励む学生を支援したいとのお声をいただき実現することができた。

4) 工芸に対する認知度を上げていきたいとの意見があった。家族で工芸に触れ合える機会を増やしていきたい。オープンキャンパスでは中学生の参加者が増えており低年齢化が進んでいる。また、学校見学や催し物に小学生の参加が多数ある。幼少期からものづくりの経験をしていくことが大事との意見があった。

5. 学校関係者評価委員会で検討された事項

検討事項				学校関係者の評価・提言
基準	項目	総括	自己評価	
教育活動	目標の設定	教育課程編成に当たり、卒業生内定企業から意見聴取し、教育課程に反映させている。各学科の教育目標、育成人材像をできるだけ具体的に示している。	5	適正に運営されている。 卒業生が独立する上での経営セミナーの開講を予定している。
	教育方法・評価等	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか  授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか	5	適正に運営されている。 ゼミで専門実習をフォローしているが、直接専門実習に活かせる課題を出すことができればより良い。
	交換留学・インターンシップ等学外活動	活動の重要性を認識、プログラムの充実を図っていく。	3	新型コロナウイルス感染症により停止していた国際交流を徐々に再開され、今後より一層の再開を期待する。
	教員・教員組織	常勤・非常勤講師を問わず、採用・育成の各段階における体制が整っている。	4	卒業後も本校に残り、講師として就職してくれる方を今後増やしていきたい。

学 修 成 果	就職率	就職希望学生への指導は、就職専任スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。 それらの達成状況（就職率）は担当部署で管理されている。	4	高い水準で推移していることを評価する。 卒業生が活躍している企業への就職が多数。
学 生 支 援	学生相談	学生の兆候を担当が見逃さずに捉え、その都度対応している。節目ごとに個別面接を行い、進路、悩みなど聞きだし対応している。結果は指導記録にまとめ情報共有している。また、今年度より看護師を常駐させている。	4	学内に学生相談室を設置し、専門相談員に心身についての相談ができる体制をとっている。日常の体調不良、健康相談やケガの応急処置に対応している。
	保護者との連携	定期的に行っている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接している。もっとも業務時間内の連絡が困難、または理解が得られない保護者が増えており、担任の負担が増している。	3	毎年10月に開催される本校の文化祭である「松葉祭」に合わせ、保護者会の実施を検討。
学 生 募 集	学生募集活動は、適正に行われているか	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、納得のいく進路決定を実現させたいと考える。高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	4	オンラインでの説明会等、状況に応じた取り組み・工夫を評価する。 工芸に対する認知度を上げていきたい。 オープンキャンパスでは中学生の参加者が増えている。 また、学校見学や催し物に小学生の参加が多数ある。

法令等の遵守	学校評価	自己点検・評価報告書を全項目WEBに掲載している。学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。	4	適正に運営されている。 学校関係者評価委員会を毎年開催していることを評価する。
	教育情報の公開	学校の概要や教育内容はWEBに掲載している。	4	適正に運営されている。 引き続きの情報発信を期待する。ショートムービーを取り入れたらどうかとの意見があった。